

三浦半島宮陵会だより

平成27年3月15日発行
第19号

発行者: 神奈川大学三浦半島宮陵会 企画・広報委員会
事務局: 鎌倉市津西 1-31-15 Tel:0467-32-4957

平成27年新年会開催

平成27年神奈川大学三浦半島宮陵会・新年会が2月1日(日)11時半から、横須賀セントラルホテルで開催されました。

今回はゲストとして、(学)神奈川大学前理事長の伊藤弘保氏ら18名、会員40名のほか、シンダイイノベーションの学生4名も参加し、参加者62名の楽しい会となりました。

会では、ジャーナリストの浅田勤氏の『鎌倉幕府と三浦一族』の記念講演がありました。

交流会の席上、参加者からコメントを頂きましたので紹介します。



大倉国光さん(昭和38年法律卒)横須賀市在住

「今日の講演で、今までの私の歴史観が変わり、歴史が身近に感じられました。」



高橋圓さん(昭和49年貿易卒)横須賀市在住「これからまた参加します」青木猛さん(昭和48年経済卒)逗子市在住「身近なテーマで面白かったです」



佐々木修蔵さん(昭和45年経済卒)横須賀市在住「今回初めて参加しました。講演も身近なことを取り上げてくれて良かったです」



堀越昌樹さん(昭和62年法律卒)「誘いました」寺西厚さん(昭和63年法律卒)共に横須賀市在住「何回か来ることで知り合いもでき楽しくなりました」



浜付朋武さん(平成8年経営卒)「貴重な話が聞けました」市川国男さん(昭和41年貿易卒)共に横須賀市在住「若い人に出席してもらい話を聞かせてください」



川瀬元夫さん(昭和31年経済卒)鎌倉市在住「毎回楽しく参加させていただいています。83歳ですが今後ともよろしく願います」



クラリネットを演奏する田原清彦さん(昭和41年貿易卒)逗子市在住「吹奏楽部OBです。本日は三浦半島の歴史を学び、もう一度勉強したいと思いました。このような会は、世代を超えて楽しめ、青春に戻ったようです」

※有難うございました。コメントは割愛しています。

平成27年新年会開催

～記念講演会・懇親会開催～

平成27年（第9回）新年会は2月1日、京急横須賀中央駅前の横須賀セントラルホテルに60人の同窓生が参加し開かれた。

今年も2部構成。1部はOB（昭和42年貿易卒）のジャーナリスト・浅田勤氏の「鎌倉幕府と三浦一族」と題した記念講演会。鎌倉に源頼朝が幕府を設けたのは、三浦一族の強力な支援があったからだと述べ、当時の時代背景をわかり易く説明していただいた。（内容は講師から寄せられた別掲載・講演要旨を参照）



2部の懇親会では、古川勝彦三浦半島宮陵会会長(左写真)の開会挨拶に続き、会員で学校法人神奈川大学理事でもある村田龍也氏の来賓挨拶、前神奈川大学理事長の伊藤文保氏の乾杯の挨拶で始まった。

伊藤氏は三浦に住まいを構えられたとのことで、三浦半島宮陵会の会員となられることを表明された。

今年は、ジンドアイノベーションサークルに所属する現役学生の参加もあり、アトラクションでは、吹奏楽部同窓会会長で会員でもある田原清彦氏（昭和49年貿易卒）にクラリネットの演奏をしていただいた。この演奏が素晴らしく、懇親会の雰囲気は大いに盛り上がった。

当年83歳の川瀬元夫氏（昭和31年 経済卒）の元氣一杯な中締め挨拶のあと、ウィットに富む語り口がいつも人気の、地元金融マン・堀越昌樹氏のメッセージもあり、ゲストとして参加していただいた宮陵会理事・手塚正氏

（昭和60年英文卒）の力強い音頭で参加者全員が校歌の斉唱を行い閉会した。参加していただいたゲストや会員の皆さんに心から感謝します。
（事務局 原柳作）



伊藤文保前理事長



参加者全員による記念撮影（H27.2.1 セントラルホテルにて）

〈記念講演〉鎌倉幕府と三浦一族

ジャーナリスト 浅田 勤 氏



浅田氏は昭和38年に神奈川大学貿易学科に入学し、最初は貿易関係のゼミに入りました。途中から大熊信行ゼミに移り、ジャーナリストになるきっかけになったそうです。

神奈川新聞入社後は、横須賀支社長兼報道部長、広告局長、かなしんサービス社長を歴任。著書に「幕末動乱」（神奈川新聞社）、共著に「三浦一族と相模武士」（同）などがあります。現在、神奈川新聞に「東国武士の鑑 土肥実平～一族興亡の歴史～」を連載中（横須賀地域版は毎週金曜日掲載）

イントロダクション～三浦一族の系図について～

三浦一族は、桓武平氏の流れを汲み、「前九年の役」の時に“平為通”が頼朝の5代前“源頼義”について行って戦功を上げ、三浦の地を与えられたことで三浦氏を名乗り、現在のJR衣笠駅の近くに“衣笠城”を築いたとされ、この為通が祖先とされている。

次の為継は、「後三年の役」の時に頼朝の4代前の“八幡太郎義家”について行って義家を助けた。そして義継、義明と続き、この義明の時に頼朝が挙兵をした。その時“義明”89歳、戦死します。

それを受けて、義澄、義村と続き、義村は北条義時に匹敵する鎌倉時代を代表する政治家と言われている。次の泰村の時に「宝治合戦(1247年)」で北条時頼に滅ぼされたが、義澄の子供、佐原義連の系統は1516年に北条草雲

に滅ぼされ滅亡するまで続いた。

講演要旨(浅田勤氏より)

鎌倉幕府樹立につながる源頼朝の拳兵は、相模の国(神奈川)を中心とした東国武士団の拳兵だった。なかでも、三浦一族、湯河原を中心とする土肥(中村)実平一族、平塚が拠点の岡崎義実を中心とした岡崎一族が頼朝を支えた。

義実は三浦一族の総帥・三浦義明の弟で、土肥実平の妹を妻としていたため、三浦、土肥、岡崎は同じグループとみてよい。特に、三浦半島に大きな勢力を誇った三浦一族は頼朝の最大の後ろ盾だった。

頼朝は1180(治承4)年8月17日、平家打倒を目指して拳兵した。その直前の6月27日、義明の息子の義澄と千葉胤頼が伊豆に配流中の頼朝を訪れた。「御閑談に刻(とき)を移す。他人これを聞かず」。拳兵についてのあらゆるケースを想定した長い作戦会議を行ったと思われる。

頼朝は緒戦で山木兼隆を打ち取ったが、8月23日に行われた石橋山の合戦では、大庭景親の平家軍に破れて敗走。安房国に脱出した頼朝は、10月6日には東国武士団を糾合して鎌倉に入った。鎌倉は、頼朝の最大の後ろ盾の三浦一族のおひざ元だった。

1184(寿永3)年1月、木曾義仲を討滅した頼朝は、同年2月に行われた一の谷の合戦で平家軍に勝利。合戦は当初一進一退だったが、義経の奇襲作戦が功を奏して平家軍は総崩れとなった。『平家物語』で有名な「鶴越(ひよどりごえ)の坂落(さかおとし)」である。

その際、真っ先がけを駆け降りたのが義明の息子で、義澄の弟・佐原義連だった。1185(元暦2)年2月の屋島の合戦を経て、翌月の3月24日の壇ノ浦の合戦で平家は滅亡した。この合戦で「先登」を進んだのが義澄率いる三浦一族だった。

源頼朝は1192(建久3)年に後白河法皇が死去すると、真っ先に征夷大將軍に任じられた。その除書の受け渡し役の晴れの舞台を務めたのは義澄だった。頼朝は、三浦一族のこれまでの勲功にこうした形で答えた。頼朝は1194(建久5)年9月、三浦の矢部郷(現、横須賀市大矢部、小矢部)に義明の菩提を弔うために一堂を建てた。現、満昌寺である。

頼朝は1199(建久10)年1月13日、53歳で死去。前年の暮れに行われた相模川の橋の完成供養に出掛けた帰りに落馬したことが原因で死去したとされる。

妻・政子、長男・頼家、二男・実朝、次女・三幡が残された。長男・頼家が跡を継いだ。頼朝の死で幕府のたが

が一拳に緩み、動乱の時代に入った。それは、北条氏が権力を掌握する歴史でもあった。

北条時頼は1247(宝治元)年6月の宝治合戦で、政敵の三浦泰村・光村とその一族を滅ぼした。三浦一族は為通から7代・泰村で、その185年の歴史に幕を閉じた。

三浦半島宮陵会同好会通信

世話人が紹介します

●ゴルフ会世話人:中川六郎(昭和44年経済卒)

メールアドレス: nakaroku@jcom.home.ne.jp



連絡先: 090-9003-2499

三浦半島宮陵会ゴルフ会は、年3回オープンコンペを開催しています。最近では、第25回オープンコンペを

2014年11月14日(金)、秋晴れの穏やかなコンディションの下で、5組18名が参加し、葉山国際カンツリー倶楽部の改修された新エメラルドコースで開催しました。

宮陵会会長杯は、4回目となる鈴木和夫氏に輝きました。スコアは、39、41の80で、バスグロも獲得し、ニアピン8番もとり2位以下を圧倒しました。準優勝は待望されていた古川会長、3位は佐藤氏でした。ニアピン10番は、マレーシアから帰国して参加した塚田氏、ドラコン6番は御園氏、18番は佐久間氏がとりました。

次回は、3月20日(金)、葉山国際カンツリー倶楽部のダイヤモンドコースです。オープンコンペですから、どなたでも参加できます。当日幹事は鈴木和夫、佐久間克己氏になります。



宮陵会会長杯を手にする鈴木和夫氏



大会参加者

●テニス会世話人:小池邦夫(昭和38年機械卒)

メールアドレス: kichiemu@mbj.nifty.com



連絡先: 090-8811-5079

今春から、元準硬式野球部監督の鈴木和夫さんと元経済学部教授(会計学)の田中弘さんが入会されました。

鈴木和夫さんは監督引退後も地元の野球チームで汗を流している由。一芸に秀でている人は何とやらで、ボールが違うスポーツを忍ぶ会得なさっています。

一方、田中さんはクラブテニスのベテランらしく、試合運びは旧会員にも大いに刺激になるようです。

今年もコートは、茅ヶ崎の湘南ローンテニスクラブと葉山のラベラテニスクラブを適宜予約して使用します。

夏季合宿を予定していますが、例年の大学の研修所や保養所以外にも視野を広げて計画しています。

テレビで観る錦織の打球の感覚を御自分で味わってみませんか。アフターテニスの一杯も爽快です。

●歩こう会世話人:若林秀明(昭和39年経済卒)

メールアドレス: w-hideaki@mvd.biglobe.ne.jp



連絡先: 090-3220-1479

平成26年6月に鎌倉市内の散策を計画しましたが、梅雨の時期でもあり、降雨となり中止となりましたが、改めて同年12月6日(土)に実施しました。

ルートは光照寺(隠れキリシタン)→円覚寺→東慶寺→葛原が岡神社(昼食)→日野俊墓→化粧坂切通→銭洗弁財天→鎌倉駅としました。会員の方々の中で、年輩者が参加されても負担にならない比較的ゆったりした箇所としました。好天に恵まれ、多数の人々が観光に来ており、にぎわっていました。集合写真は、円覚寺にあります国宝「舍利殿」前で撮ったものであります。

次回は、横須賀方面の「歩こう会」を考えていますので、皆様お誘いの上ご参加くださるようお願いいたします。



●つり会世話人:清水英樹(昭和56年法律卒)

メールアドレス: Shimih01@kanagawa-u.ac.jp

連絡先: 090-2257-0691

ただ今休止中ですので、ご了承ください。

〈わが社・わが店・わが商品の紹介〉
ターンオン株式会社

社長 金野 義勝(昭和45年経済卒)



この度三浦半島宮陵会から原稿依頼うけましたので、紹介します。わが社は、よくテレビで見られる、コンサートのペンライトを製造販売しています。ペンライトの市場は幅が広く、コンサート以外にも大学祭、カラオケ店、老人ホーム、企業のイ

イベント、子供や孫のなど誕生祝い、名前入りなど、人が集まるイベントに幅広く使われています。

それも国内だけでなく、最近では、韓国やシンガポールなど東南アジアやアメリカ、ヨーロッパなどでも使われるようになりました。

ペンライトは棒がただ光るだけでなく、国の規制の安全性をクリアし、光の屈折、照度、色彩、熱など光工学の特許技術が多く駆使され、大学との共同研究で常に進化し続けています。

本社は横須賀市内ですが、浅草に小さなビルを構え、設計デザイン、営業等を行っています。中国に工場がありそこで製造をしております。金型をはじめ印刷など、多くの中小企業の協力を得て会社が成り立っています。特にジャニーズ系列のコンサートに採用され、エーベックスや演歌歌手のコンサートにも採用されています。

みなさんも知っている、スマップ・嵐・AKB48・ももいろクロバーZ・氷川きよしさんなど、日本のコンサートの約7割は当社が製造し販売しています。それとは別に、例えば東急ハンズなど全国百貨店の700店舗でも販売しています。

コンサートの規模ですが、大きな場合5~6万人、小さい場合1千人から5千人規模と色々で、毎日どこかでコンサートが行われています。最近大きいコンサートはスマップで、110万人動員しました。

会社を立ち上げたキッカケは、長男の技術やデザインカ

で設立しました。ペンライトはコンサート毎にデザインも違います。私はただの社長で、多少の人脈と資金管理を担当しているだけですが、経営は順調な時だけでなく、当初から湘南信用金庫には大変お世話になってきました。

近頃の大学生の就職活動みると、大企業の安定したところに集中していますが、中小企業で、規模が小さくても一人当たりの売上げが大きく、面白い企業がたくさんあることを知ってもらいたいですね。また宮陵会でお会いできるのを楽しんでいます。

〈他組織の紹介〉

神奈川大学札幌宮陵会事務局長

高尾 雅幸 (昭和46年経済卒)

三浦半島宮陵会の皆さんこんにちは。郊外の山々は雪も多く残り、まだまだ春の足音が遠く感じられる札幌の地よりお便りをします。

札幌宮陵会は今年で創立 75 周年を迎えることとなり、来る 5 月 30 日に「平成 27 年度総会・懇親会」と道内 8 地域の宮陵会が持ち回りで開催している「第 18 回北海道ブロック(全 8 宮陵会)会議」を予定しております。

故三谷榮一先輩(昭9専卒)が昭和15年に創設した旧札幌支部も、全国の地方組織が抱える数々の同じ様な悩みを持ちながら、紆余曲折の歩をしてきました。一時期、活動が停滞する状況が続いていましたが、平成10年に50年代卒の会員による「札幌支部再生に向けてのプロジェクト」が立ち上がり、組織的な運営形態の模索、若い年代の役員・スタッフの増員、総会・懇親会及び各イベントの内容等を再検討し、諸先輩の協力の下に現在の札幌宮陵会になっております。

本年1月に急逝された鈴木英司会長(昭37経卒)の口癖でもありました『話題の無いところに人は集まらない。母校に元気が無ければ同窓生は見向きもしない』を合言葉に、少なくとも一年に一度は、同窓の仲間に会える機会を絶やしてはならないと、数々のイベントを行ってきました。

当時、北海道合宿をしていた陸上部(駅伝チーム)の激励会、卒業年度の近い仲間での温泉旅行、成吉思汗パーティー等、いわゆる飲み会の開催、忘・新年会やゴルフコンペの開催、ホームカミングデーにも出演したアカペラ・コーラスグループの結成などを実施して

きました。

最近では、北海道からの入学者も減り、新卒者の道内へのUターンも極端に少なくなっています。また、会員の年齢が高くなったこともあり、総会や各イベントへの参加者が減少傾向にあります。火種を絶やさないと、何とか維持しているのが現状です。

今年の箱根駅伝は、立て直しの最終年と聞いていましたが、残念な結果でした。母校に元気がないと、同窓生も意気消沈です。

三浦半島宮陵会の皆さん、北海道から沖縄、そして海外宮陵会の仲間と共に、宮陵会・母校神奈川大学の発展のためにも、魅力作りに向けた取り組みをしていきましょう。

最後に、貴会の益々の発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げ、札幌宮陵会の紹介とさせていただきます。



平成26年度札幌宮陵会忘年会 2014.11.29

札幌すすきの駅西アパホテルにて(ホームページより)

〈特別寄稿〉ベトナム事情

～地元結婚式に招待されて～

砂川 正夫 (昭和44年経済卒)



このたびは図らずも、私の元会社の同僚 A さんの知人・ファンさんから結婚式の招待を受け、ベトナムへ行く事になりました。

ベトナムは日本びいきで、日本語を第二公用語に組み入れる勢いとのこと。

ファンさんは、現地ベトナムのコンピューター会社のシ

STEMアナリストと知り合い結婚することになった。彼女は大学卒業後帰国して、日本商社に勤める傍ら日本語学校の教師となり、披露の宴席では、その生徒（日本語学校経営者）が、我々の通訳をかってくれました。

披露宴は日本と異なり、数回行うそうです（家の格式のせいかも知れない）。招待者は300~500人、儀式（挨拶）は10分ぐらい、後は飲めや歌えの3時間の大宴会。

翌日、新婚さんとファンさんのご両親に、市内観光の案内をして頂いたので、少々ベトナム事情を紹介します。

かつて“サイゴン”と呼ばれた、ベトナムの都市ホーチミンは、フランス統治時代の趣のあるコロニアル建築が立ち並び「東洋のパリ」と称され、ベトナムきっての商業都市とされている。近年高層ビルなどの建設ラッシュとなっており、フランス統治時代の面影をもちながらも、近代的な面も併せ持った都市です。

ベトナム戦争は、第2次世界大戦後に世界で起こった戦争の中で、最大規模の戦争となった。アメリカの軍事規模、兵士・民間人の死傷者数やその他あらゆる面で朝鮮戦争、湾岸戦争、イラク戦争をはるかに超えていた。

また、南ベトナム政府の首都として、アメリカの傀儡政権ゴジンジャム（1954年）からグエン・ヴァン・チュー（1965年）大統領まで、17度線以北の北ベトナムや南ベトナム解放戦線との終わりのない戦いを経験した。

第2次世界大戦が起き、日本はインドシナに進駐。フランス、日本の二重支配下にはいる。日本が連合国に降伏するとホーチミン率いるベトナム独立同盟（バトミン）は、一斉蜂起してベトナム全土を掌握。ハノイを首都とするベトナム社会主義共和国が成立。アメリカ政府は、共産主義の拡大を封じ込めるという世界戦略と反ソ連、反共産主義を示す「ドミノ理論」に基づいて、南ベトナムに最大の物資・武器を投入し泥沼の15年戦争へと突入した。

1975年ベトナム戦争は終結。現在のベトナムは、西沙諸島問題では中国と、また隣国のカンボジアとも敵対。社会主義国でありながら、市場経済のドイモイ（刷新）政策を取り入れ、アメリカや日本と友好関係を保っている。

今回、披露宴の翌日ファンさん達に案内して頂いた場所に“クチ”という所がある。クチはホーチミン市の中心部



から北西部40kmにある。南ベトナム解放民族戦線（バトコン）によって作られた、全長200kmの地下トンネルのネットワークがある。

ここよりカンボジアの国境付近まで、トンネルが張り巡らされていた、周辺には落とし穴が仕掛けてあったり、また様々な工夫で、身を潜め病院まで設置し暮らしていた様子を知ることができる。

私も観音崎公園で歴史遺構、特に日露戦争時代の砲台跡に興味があるので、ベトナムの戦争遺構も見たいと思っていた。しかし同じ戦場と言っても、観音崎は悲惨な戦いの場所ではなかった。首都圏防備の拠点であり、クチの様な血みどろの争いの場所ではなかった。

私も来園者に対して、争いのない平和な世界をと説明をしてきたが、話の中に私自身の“軽さ”を感じた。本当に争いのない平和な世界になりますように。

平和を取り戻したベトナムは、これからも、さらなる経済成長をとげることでしょう。魅力ある国“ベトナム”には、もう1度行ってみたい国だと思っております。

箱根駅伝応援記

古川 勝彦（昭和40年経済卒）

関東学生陸上競技連盟が主催する第91回東京箱根間往復大学駅伝競走（通称箱根駅伝）が2015年1月2日・3日開催され、今年も我が「三浦半島宮陵会」有志は、「保土ヶ谷・旭区宮陵会」有志と共に、JR保土ヶ谷駅で連日、通過の1時間前から準備をし、花の2区・9区の応援を行った。当日ご参加の皆様、ご苦労様でした。

大会には昨年の大会でシード権を獲得した10大学、昨年10月の予選会を通過した10大学と関東学生連合の合計21チームが出場した。本学は5年連続46回目の出場となった。

神大は全日本大学駅伝で10位と健闘し、本予選会でも1位通過を果たし、今年こそシード権獲得かと期待を持たせたが、往路14位、復路も16位、総合17位と振るわず、目標のシード圏内に遠く及ばない結果となった。

今年の優勝は青山学院大学であった。優勝するときには、本学が優勝した時のような区間新記録、区間賞を連発し、その勢いが感じられる。今回神大は、4区の西山（3年）が区間5位で最高、5人が11位以下となった。これではシード権どころでない。40人を超える部員の中で誰をエントリーするか、傍で指導する監督・コーチの責任は重大である。たとえエントリーが変更になったとしても、交代する選手は十分な備えが出来ていなくてはならない。そのような取り組みが出来ていないような気がする。

来年は又、予選会からの挑戦である。多くの関係者が沿道での応援に参加したくなるような、目の前を上位通過で走り抜けるような、選手たちの走りに期待したい。



大学ニュース&お知らせ

●中島前学長はじめ24名の先生方が定年退職

本年3月末日をもって、大学を定年退職される先生方をご紹介します。

法学部の山田徹教授(政治学)、経済学部の後藤晃教授(国際経済)・森泉陽子教授(日本経済)、外国語学部の中島三千男教授(日本思想史)・尹健次教授(日朝関係史)・大里浩秋(日中関係史)、人間科学部の山下昭子教授(体育)、理学部の内田啓一郎教授(情報)、工学部の成田清正教授(数学)・平手孝士教授(電気・電子)・立山暢人教授(物理学)・櫻井忠光教授(化学)・渡邊良男教授(電気・電子)・渡邊靖士教授(物理学)の14名と私を含む職員10名です。

大半の方々が昭和40年代後半に着任され、40年前後大学に勤務されましたので、在学中にゼミや授業でお世話になった先生方もいらっしゃるのではないかと思います。

昭和40年代後半と言えば、学園紛争の真っ盛り。学生寮は過激派学生の拠点となり、大学も占拠、授業や試験も出来ず、追い出すために大学はロックアウトを繰り返す等、大学が最も大変な時期でした。生き証人でもある教職員の方々が大学から去っていきます。いつまでもお元気で第二の人生をお過ごし下さいと申し上げます。

● 課外活動団体の支援について

神奈川大学は、創立者の建学の精神や教育理念を継承し、学生支援を充実させるために種々の奨学金募金を設定しています。今回は「神大スポーツ・文化振興賛助金募金」をご紹介します。会員の皆さまの温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

「神大スポーツ・文化新興賛助金募金」は、課外活動の振興を図ることを目的とし、課外活動団体に対する支援を行うための募金です。寄付金は、ご指定いただいた課外活動団体に送り、熱意をもって課外活動で頑張る学生への支援として活用させていただきます。

募金額は1口1,000円〔1口以上1,000円単位〕で、賛助する課外活動団体を必ず指定してください。芳名簿〔「募金事業だより」・「宮陵会誌」〕に掲載されます。税の優遇措置が受けられます。

募金のお申込み方法について ①インターネットによるお申込み：お名前、ご住所等の登録から決済〔領収書・証明書発行〕まで、ご寄付のお申し込みができます。神大のホームページの申込入力画面から入力してください。②電話によるお申込み：045-481-5661(代表) 受付時間:9:00~16:30(土日・祝日・本学休業日を除く) 代表電話となっておりますので、受付にて「募金課」とお伝えください。担当部署にお繋ぎいたします。③E-mailによるお申込み：アドレス**bokin-jml@kanagawa-u.ac.jp** 件名：「神大スポーツ・文化振興賛助金」募金 必要事項：(1)住所 (2)氏名 (3)連絡先電話番号

決済方法について ①クレジットカード決済 ②インターネットバンキング決済 ③ATM決済 のいずれかをお選びください。

HP(ホームページ)の紹介



神奈川大学三浦半島宮陵会のホームページをご覧になったことはありますか。

只今のアクセス件は5,185件です。

会員からの便りでは内藤正久さんから「今月の鳥・コメントと写真」(写真は2/21投稿のシロハラ)として、季節を感じさせる便が送られてきていますので、ホームページに掲載しています。皆様も連絡メールを利用して、便りをお寄せください。また、ゴルフコンペ等、催しの後は、写真とともに催しの様子を掲載するようにしています。皆様もホームページにアクセスをしてください。(広報担当：塩塚定雄)

会費納入のお願い

年会費の振込をお願いします。該当者には郵便の「払込取扱票」を同封しました。振替手数料は支部で負担いたします。

◎郵便振替受入口座：久里浜支店

00290-5-95815 神奈川大学三浦半島宮陵会

◎横浜銀行口座：久里浜支店 普通預金

1747984 神奈川大学三浦半島宮陵会

●年会費は年間3千円、4年間前納は1万円です。

75歳以上の会員は1万円納付で永久会員です。

※神奈川大学三浦半島宮陵会（当地域組織）の活動は、年会費で運営しています。宮陵会本部の会費とは異なりますので、ご注意ください。

（会計担当：若林秀明）

年会費納入状況（平成27年3月1日現在）

〔平成27年3月末まで納入済〕

（鎌倉）川瀬 元夫、小田 進一、小澤 光、
矢澤 基一、田中 章仁

（逗子）田原 清彦

（葉山）中村 進、中川 六郎、石渡 俊一、
（横須賀）萩原 孝、南雲 忠男、角谷 彰

蛭子 英二、石井 一男、篠原 久恒、

市川 国男、嶋田 順子、稲垣 茂、

石田 泰教、島海 洋義、松岡 和行、

久根口昭二、星山 正範、鈴木 康介、

吉川 優也、菊池 武、島崎 和久

〔平成28年3月末まで納入済〕

（鎌倉）山岸 一輔、井口 淳

（逗子）長澤 良成

（葉山）米田 光男、小池 邦夫

（横須賀）塚田 尚、大倉 國光、伊藤 文保、

奥野 晶洋、久保田宣彦、金野 義勝、

名取美佐男、相原 充、鈴木 和夫、

伊澤 隆雄、江尻二十三、鈴木 三郎、

西脇 幸二、鈴木 伸夫、二井美恵子、

堀越 昌樹、箕輪 義夫、田中 弘

浜付 朋武、高橋 圓

（三浦）源代 价克、塩谷 宏之

〔平成29年3月末まで納入済〕

（鎌倉）小永井 潔

（逗子）青木 猛

（横須賀）芝崎 元晴、鶴田 俊秀、武井 利徳、

青山 隆一、永野 茂、石渡 卓、

長島 保雄

〔平成30年3月末まで納入済〕

（鎌倉）若林 秀明、石井 和行、古川 勝彦

（逗子）岸本 光瑞、深津 敏夫

（横須賀）中山 廣男、落 勝廣、結城 康雄、

長谷川征勝、金井 昌孝、熊澤 勝喜、

砂川 正夫、森下 守久、鈴木 稔、

嶋田 晃、塩塚 定雄、舟崎 学志、

渡邊 健、内藤 正久、佐久間克己、

工藤 真也

（三浦）原 柳作、石渡 大輔

〔平成31年3月末まで納入済〕

（横須賀）佐々木修蔵

〔永久会員〕

（横須賀）八嶋 政臣

合計：88名

～編集後記～

会報19号をお届けいたします。本号では、2月1日に開催されました、三浦半島宮陵会・新年会の模様を掲載させていただきました。同時に開催された記念講演会では本学OBでジャーナリストの浅田勤氏に「鎌倉幕府と三浦一族」と題して講演していただきました。本誌1面に参加者の感想がありますが、今まで知らなかった郷土の歴史を、あらためて知ることが出来たと好評でした。

また、本誌では「他組織の宮陵会紹介」を連載しています。今回は「札幌宮陵会」の鈴木英司会長に原稿を依頼しましたが、本年1月に急逝されたとの訃報をお聞きしました。謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。今回原稿を寄せていただいた、高尾雅幸事務局長がエールを送ってくれました。「三浦半島宮陵会の皆さん、北海道から沖縄、そして海外宮陵会の仲間と共に、宮陵会・母校神奈川大学の発展のためにも、魅力作りに向けた取り組みをしていきましょう」と。御礼を申し上げます。小池氏の切絵より

今号から、ご要望にお答えし、活字のポイントを大きくしました。多少ですが読みやすくなったかと思えます。紙面の充実の為に、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。（塩塚）

